

# 日経BPデジタルサービス 導入事例

野村総合研究所 編



最先端の技術とビジネスを繋ぐ

日経 **XTECH**

決断に必要な視点をあなたに。

日経 **ビジネス** 電子版

未来の消費を予測する

日経 **XTREND**

働く女性に向けたWebメディア

日経 **Xwoman**

## コンサルティング活動を支えるのは、 日経クロステックによる **豊富かつタイムリーな情報インプット**

野村総合研究所（以下、NRI）は、日本で最も早い段階に登場した数多くの実績を誇るシンクタンクです。その提言は日本企業の経営方針を導いてただけでなく、国家方針の決定にも大きく影響を与えているといえるでしょう。

その提言やレポートの“品質”を支えているのが、NRIに所属する多くの専門家の豊富な知見です。この知見を蓄えていくこともNRIにとって重要なミッションの1つといえます。そのためにNRIはどのような仕組みを整備しているのでしょうか。システムコンサルティング事業本部の関係者に伺いました。

### 専門知識の深化は幅広い基礎知識が前提

シンクタンクにとって、知見の蓄積と共有、そして人材育成は重要な課題となります。クライアントに向けて質の高い提言やソリューションを提供できるかどうかは、NRI社員1人1人がいかに豊富な知見を有しているかにかかっているといっても過言ではないでしょう。

野村総合研究所執行役員システムコンサルティング事業副本部長の小田島 潤様は、NRIにおける知見構築の重要性について次のように説明しています。「コンサルタントは、専門家としての知識やスキルに対して対価をいただいています。専門性がないのにお金をいただくわけにはいかないのです。そういうことを新人の頃から叩き込まれているので、NRI社員は自己研鑽に対する必要性を強く認識していますし、組織としてもそういう制度を充実させています。」

クライアントはNRIに専門領域の知見と経験を期待します。小田島様も「eCash」（イーキャッシュ）という電子マネー創成期のプロジェクトに1997年から参加したのをきっかけにセキュリティ技術に強い関心を持つようになりました。その後、社内ベンチャーとしてプロジェクト進行中であったNRIセキュアテクノロジーズの活動に参加し、セキュリティの専門家として2014年には同社社長として300人以上の社員を率いるまでにセキュリティ分野の知見を極めました。

しかし、小田島様はITのセキュリティの知見を深めていくためには、その前にIT全般の知見を広く習得することが必須だったと語ります。「セキュリティはネットワークとかアプリケーションとかの上に成り立つわけですから、セキュリティに詳しくなろうと思うと、IT全般に詳しくならなければいけません。その時点でカバー範囲が広がってしまいますね。」（小田島様）

NRIでは社員個々人の高い自己研鑽意欲を支える充実した社内支援体制を用意しています。入社してから6年間までのいわゆる“若年層”社員は、様々な経験を通じて基礎スキルと行動を習得することで、参加しているプロジェクトに貢献しつつ自分の将来の方向性を考えていきます。

詳しくは [BPM Channel](#) へ



小田島 潤 様

## 切磋琢磨が自己研鑽意欲の原動力

若年層、中堅層を経てエキスパート人材へと成長する全ての段階において、NRI社員は常にマーケットの動きをとらえ、自ら情報を収集しそれをブラッシュアップしていく必要があります。それらを個人及び組織の知見として熟成させた上でマーケットに自らの考えを投じて新しい仕事をつくる、というサイクルを繰り返すことでスキルアップしていきます。



植田 一成 様

このようなNRIにおけるスキルアップの特徴について、野村総合研究所システムコンサルティング人材開発室長の植田 一成様は、「もともと社風がそういう感じですね。社員が互いに切磋琢磨しているような関係があります。顧客や上司、同僚

から質問をされた時、知らないワードがあることは恥ずかしいという感覚を持っています。」

こういう社内風土のおかげで、NRI社員は未知の領域に対する学習意欲が非常に高いといえます。社内に豊富な知見を有した人材を豊富に抱えているNRIでは、まず「社内の有識者」に教えを乞うそうです。事前にオープンな情報（書籍やネット等）を自ら収集して予習をし、知識レベルを専門家の話が理解できる最低限のレベルまで上げておく必要があると植田様はいます。「専門家の豊富な知見を提供してもらうわけですから、基本的なワードが理解できなくては会話が進みません。」（植田様）

NRIでは予習で用いるための“オープンな情報”を提供する一環として社内にはライブラリーを設置しています。そこには、専門書や各種統計情報、外部調査会社による多種多様なレポート、政府機関の白書などを所蔵しています。これら情報の活用についてもNRI社内で研修講座を設けています。

詳しくは [BPM Channel](#) へ

## クオリティを決めるのは良質なインプット

良質なインプットを重視するNRIシステムコンサルティング事業本部において日経クロステックが採用されました。その理由について、野村総合研究所システムコンサルティング事業本部ITアーキテクチャーコンサルティング部で人材開発室の業務にも携わっている宮本格様は次のように説明しています。

「信頼できるコンテンツを用意しておくことは、常に質の高いコンサルティングをするために非常に重要だと思っています。その1つとして日経クロステックは情報量が豊富で世の中の動向を踏まえた良いコンテンツだと考えています。NRI社員にとって基礎的な知識として、まずはインプットすべき情報がそろっています。どこが調べたものかもよく分からない情報をインプットにするわけにはいきません。」

最近、話題になることが多いDX（デジタルトランスフォーメーション）では、対象となる領域が広範となるため顧客からIT領

域だけではなく、顧客の業務・ビジネス全般の知見も求められることが増えています。このような変化に応じるため現場では「顧客の業務・ビジネスに関する情報をもっと提供してもらえないか」という声も増えています。私もこれまで以上に顧客の業務・ビジネスに関する情報が欲しいと思うときがあります。「いろいろな場面で業務とITの境目がほとんどないような話が増えていきます。我々のビジネスの源泉でもある「良質な情報インプット」の信頼できるソースの1つとして、日経クロステックのコンテンツを今後より活用していきたいと考えています。」（宮本様）

詳しくは [BPM Channel](#) へ



宮本 格 様



**BPM Channel** でも導入事例をご紹介します

詳しくは [BPM Channel](#) へ

<https://www.nikkeibpm.co.jp/channel/>



# 日経 XTECH

日経 クロステック

技術とビジネスの“クロス領域”で起きている  
変革の最前線をいち早く提供するデジタルサービスです。



## 日経クロステック 有料会員の特長

- 1 日経クロステックのオリジナル有料記事が読み放題**  
「AI」「IoT」などの最新技術トレンド、「IT」「電子」「機械」「自動車」「建築・住宅」「土木」などの専門分野を徹底深掘りした情報、「自動運転」「FinTech」「製造業DX」「建設テック」などの技術とビジネスの「クロス領域」で起こる変革の最前線情報などを、専門記者120人が総力を挙げて発信します。
- 2 技術系専門誌の掲載記事をウェブサイト(HTML)でご覧いただけます。**
- 3 技術系専門誌の掲載記事をPDFで月間100ページ閲覧いただけます。**

### 対象となる技術系専門誌



- 日経コンピュータ
- 日経Automotive
- 日経NETWORK
- 日経アーキテクチュア
- 日経エレクトロニクス
- 日経コンストラクション
- 日経ものづくり

## 日経クロステックに5つの専門メディアを搭載!

見逃せない! 注目分野の記事をピックアップ

### DXの現場 Digital × Development

#### 変革に挑むITプロフェッショナルの実践情報

DXを実現するために最新の技術をどのように活用すべきか、課題への解決策を専門家やシステム開発・運用現場への豊富な取材を基に解説。

### ビジネスAI

#### 最新AI情報で事業革新をリードする

「AI研究の最前線」、「企業によるAI活用事例」、「AI人材の採用/育成/活用」、「AIと倫理・法・社会」という4つのテーマで、ビジネスに役立つ情報を提供。

### デジタルヘルス

#### 健康・医療のイノベーションと新ビジネスを探る

健康・医療・介護の分野でイノベーションを起こそうとする人や企業、ヘルスケアの新ビジネス創出を狙う様々な周辺業界の動きを探る。

### 建設テック

#### 現場を変える、働き方を変える、未来が変わる

建設会社や住宅会社、建築設計事務所、建設コンサルタント会社、IT企業、メーカーなどの技術者やビジネスリーダーに向けた、課題解決のためのソリューション情報を提供。

### 製造業DX

#### 製造業の「旬」な情報を先取りする

スマート工場やスマート調達、物流、サプライチェーンの事例や、設計業務や生産技術業務のデジタル活用事例、さらに、その手段となるサービスや製品の最新情報を提供。

